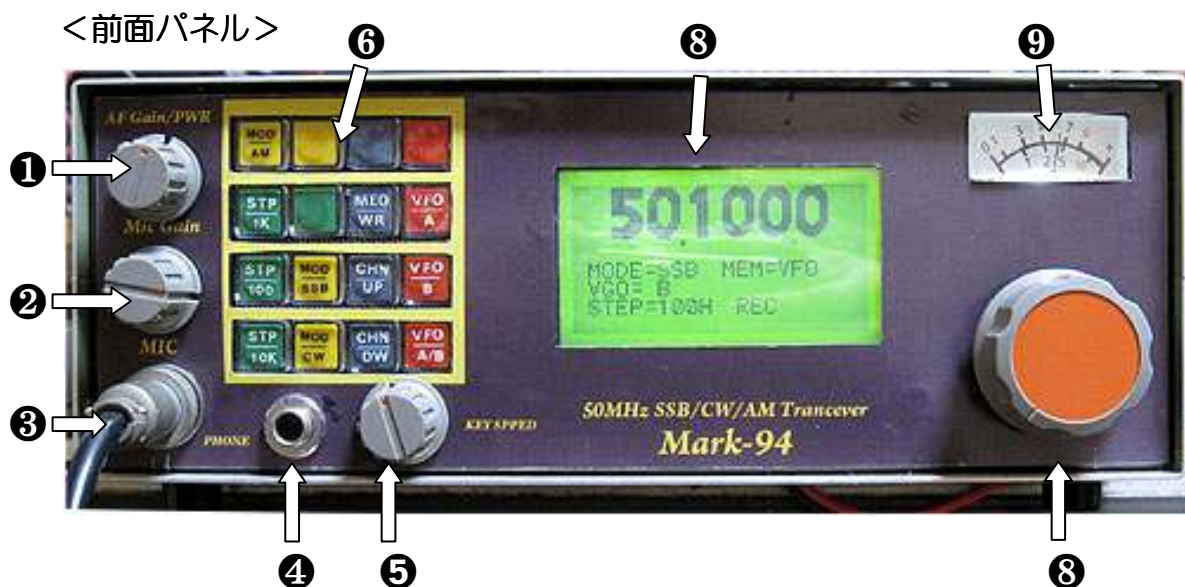


# 50MHz CW/SSB/AMトランシーバー Mk-94 取扱説明書



*JF2SDR*

## 1. 各部の名称と機能の説明



### ① 電源スイッチ兼音声ボリューム

本ボリュームを右見回すことで、電源が入ります。また、電源を断する場合には、一番左まで持っていき、「かちっ」と音がするまで回します。

スピーカー及び「Phone」ジャックに接続した場合のレシーバーの出力を調節できます。

つまみを右に回すに従って、出力が大きくなります。

### ② マイクゲイン調整

SSB及びAMモードにおける、マイクゲインのコントロールです。右に回すに従ってゲインは大きくなり出力が増えますが、波形が歪む恐れがあるので、3時—4時方向での使用を限度としてください。

### ③ マイク端子

### ④ フォーンジャック

ステレオタイプのフォーンジャックです。3極のジャックですが、内部で2極は繋がっていて、ステレオにはなっていません。本ジャックにレシーバーを接続している場合には、スピーカーの音声は出ないようにになっています。

### ⑤ エレキースピードの調整

**CW** モードにおいて、後部パネルにある「**Key**」端子にマニピレータを接続すると、エレキーの機能が利用できます。本ボリュームを右に回すと、信号の送出スピードが速くなっていきます。

### ⑥ キーボード

モードの切り替え、周波数可変ステップ、**VFO** の切り替え、メモリ機能などを選択します。詳細は後ページの「キーボードの使い方」を参照してください。

### ⑦ LCD 表示器

送受信周波数、モード、可変ステップ、**VFO** やメモリチャンネルの表示をします。詳細は後ページの「LCD 表示器」を参照にしてください。

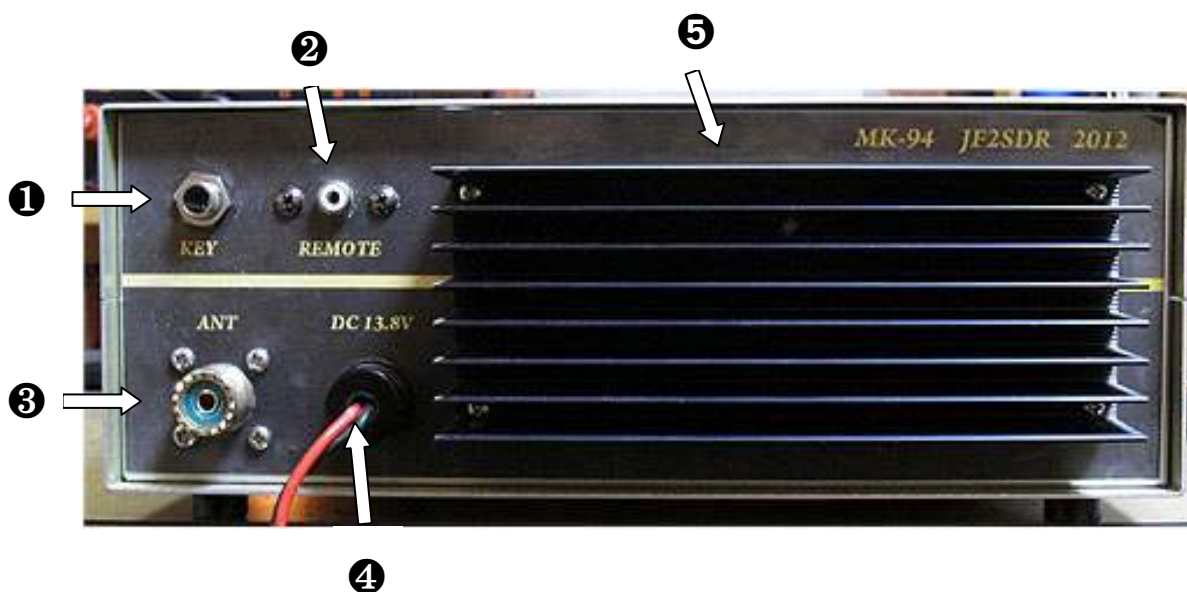
### ⑧ 周波数調整ツマミ

右に回すと、周波数が高くなり、左に回すと低くなります。ただし、50.000**MHz** より下、または50.700**MHz** 以上にすることはできません。

### ⑨ Sメータ兼パワーメータ

受信時には、受信信号強度を確認する「**S** メーター」、送信時には送信出力を確認する「**パワーメータ**」として動作します。

## <背面パネル>



### ① CWモード用キージャック

マニピュレータを接続するためのステレオジャックです。

### ② リモートコントロール用ジャック

リニアアンプ接続時などに、送受信をコントロールする信号です。内部はリレー接点になっており、受信時は接点がOFF、送信時はONになります。

### ③ アンテナコネクタ (M型コネクタ)

50 オームのインピーダンスを持つ同軸ケーブルで、外部アンテナと接続してください。

### ④ 電源コネクタ

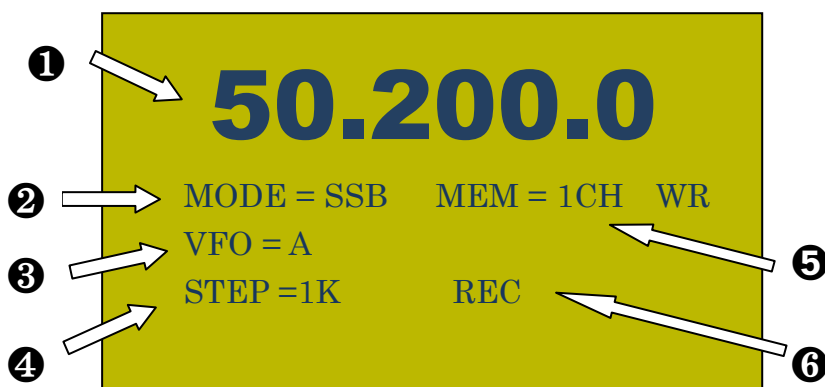
リップルのないDC13.8Vを接続します。

### ⑤ 放熱器

送信終段アンプの放熱器です。

## 2. LCD 表示器

本機では、運用に必要な情報のほとんどを LCD 表示器で確認することができます。  
レイアウトは次の通りです。



### ① 周波数表示

運用中の周波数を表示します。50.000.0MHzから 50.699.9MHz まで可変することができます。  
周波数は、VFO の場合は周波数調整ツマミを、メモリチャンネルの場合はキーボードからの入力  
で選択したメモリされた周波数が表示されます。

### ② モード表示

運用モードを表示します。CW、SSB、AM をキーボード操作で選択します。

### ③ VFO 選択の表示

本機では、VFO-A 及び VFO-B の2つの VFO があり、どちらを使用しているかを表示します。  
操作はキーボードから行います。

### ④ 周波数ステップ

周波数調整のステップを表示します。 100Hz、1KHz、10KHz をキーボード操作で選択します。

### ⑤ メモリチャンネル

メモリ機能使用時には、メモリチャンネルを表示します。「1CH」から「9CH」まで。  
VFO 選択時は「VFO」の表示となります

### ⑥ 送受信情報

受信時は「REC」、送信時は「TRS」の表示となります。

### 3. キーボードの使い方

キーボードのレイアウトは下記の通りです。

<u>MOD</u> AM			
<u>STP</u> 1K		<u>MEO</u> WR	<u>VFO</u> A
<u>STP</u> 100	<u>MOD</u> SSB	<u>CHN</u> UP	<u>VFO</u> B
<u>STP</u> 10K	<u>MOD</u> CW	<u>CHN</u> DW	<u>VFO</u> A/B

各キーは機能ごとに色分けされています。

黄色 …… **Mode** の選択

緑色 …… 周波数ステップの選択

赤色 …… **VFO** の切り替え

青色 …… メモリチャンネルの登録と切り替え

#### **MOD** キーグループ

MOD/AM …… このキーを押すと **AM** モードになります

MOD/SSB …… このキーを押すと **SSB** モードになります

MOD/CW …… このキーを押すと **CW** モードになります

#### **STP** キーグループ

STP/1K …… このキーを押すと周波数切り替えステップが **1KHz** になります

STP/100 …… このキーを押すと周波数切り替えステップが **100Hz** になります

STP/10K …… このキーを押すと周波数切り替えステップが **10KHz** になります

## VFO キーグループ

本機では、PLL/DDS 回路のソフトウェア制御により2つの VFO (VFO-A、VFO-B) を、電子的に持っていて、各々が独立した周波数を指定することができます。

VFO/A …… VFO-A に切り替えます

VFO/B …… VFO-B に切り替えます

VFO A/B …… 受信周波数を VFO-A で指定した周波数、送信周波数を VFO-B で選択した周波数にすることができます。 これにより、スプリット周波数での運用が可能です。

## メモリキーグループ

本機では、9つの異なる周波数をメモリに登録することができます。

### <メモリへの周波数登録>

書き込みたいメモリチャンネルを、

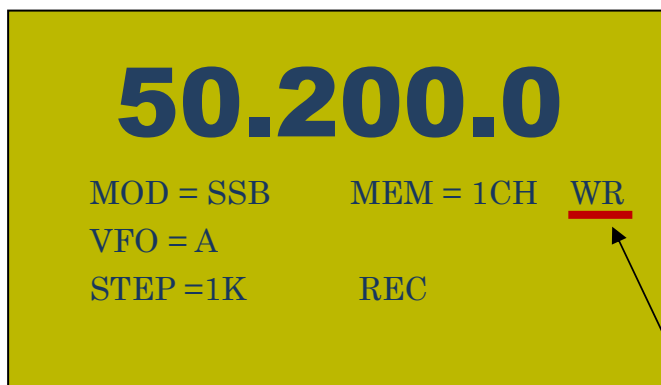


または



キーを押して選択します。

この際、LCD 表示器の「MEM=」にチャンネル番号が表示されます。



次に



キーを押します。メモリチャンネル表示の横に「WR」の文字が出ます。

周波数調整ツマミを回して、メモリに書き込みたい周波数を選択します。

再度、



キーを押します。「WR」の表示が消えて、周波数が書き込まれます。

<メモリチャンネルの選択>



又は



キーを押して、チャンネルを変えることができます。

CH1→CH2→CH3→CH4→CH5→CH6→CH7→CH8→CH9→VFO の順番に変わっていきます。

メモリ機能を使用せず、VFO で運用するときは「VFO」の表示になるようにしてください。